

- 市町村においては、林業の専門的な知識・技術を持った職員が少ないことから、市町村の森林経営計画の実行監理や森林経営管理制度に係る森林の評価、森林整備の実施及びその財源となる森林環境譲与税を活用した事業作成に際し、技術的支援が必要となっている。
- このため、市町村職員を対象に、森林管理や森林環境譲与税の活用に必要な知識・技術習得に係る研修を実施。
  - ・ 全体研修：森林管理の基礎知識、森林の調査や評価等の技術研修及び森林環境譲与税を活用した事業企画等の演習を実施（2回）
  - ・ 地区研修：各支庁・振興局ごとに、森林現況に応じた管理方法や施業技術等の習得等の現地研修を実施（7地区）

## □ 事業内容

### 令和7年度市町村森林管理技術者等養成(全体・地区)研修

【事業費】1,285千円（全額譲与税）

【実績】

- ① 全体研修 2回：参加者60名（市町・県）  
 （内容）・森林管理に必要な基礎知識、森林調査等の実践研修  
 間伐の設計・積算及び立木評価 等  
 ・森林環境譲与税を活用した事業の企画・立案（演習）
- ② 地区研修 7地区・9回：参加者179名（市町・事業体、県等）  
 （内容）・ドローンによる苗木運搬、機械による下刈り省力化  
 ・ICTを活用した森林調査（境界確認等）など

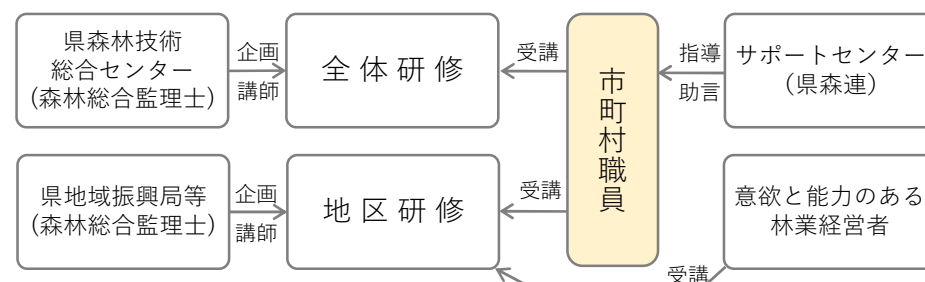


（森林環境譲与税を活用した事業の企画・立案の演習）



（森林調査の現地研修）

## □ 事業スキーム



## □ 工夫・留意した点

- ・ 全体研修は森林整備及び森林環境譲与税活用の2本立てで実施
- ・ 森林環境譲与税の活用研修では、グループ毎にテーマを設け、事業を企画・立案する実践的な演習とした。
- ・ 地区研修は、各地域の実情に応じて、ICTの活用、ドローン等を活用した苗木運搬や下刈り省力化等の研修を実施した。

## ◇ 基礎データ

|               |            |
|---------------|------------|
| ①令和7年度譲与額     | 148,149千円  |
| ②私有林人工林面積（※1） | 158,983ha  |
| ③人口（※2）       | 1,588,256人 |
| ④林業就業者数（※2）   | 1,959人     |

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2年国勢調査」より

- 本県の林業就業者数は令和6年度末で1,395人で、近年は緩やかな減少傾向で推移している。
- 新規就業者数は、令和2年度から令和6年度までの5年間は平均140人/年程度であり、就業者全体に占める若年層の割合は増加しているものの、離職者も多いことから、林業就業者の確保が急務となっている。
- 林業の成長産業化と併せて、森林の多面的機能を持続的に発揮するためには、森林資源の循環利用が不可欠であり、今後も増加が予想される再生林や保育作業等に確実に対応していくため、林業担い手の確保・育成に係る総合的な取組を実施。

## 事業内容

### 林業担い手確保・育成総合対策事業

【事業費】102,640千円（うち譲与税70,300千円）

【実績】

#### 1 かごしま林業大学校運営事業

令和7年4月に新規就業希望者向けの1年間の長期研修を行う「かごしま林業大学校」を開校し、林業の基礎から最先端に至る幅広い知識と技術を兼ね備えた安全意識の高い即戦力となる人材の育成を実施

- ・ 森林・林業に関する幅広い「知識」の取得
- ・ 林業就業に必要な「資格」の取得（13種類）
- ・ 高い安全意識と最新の林業にも対応する「技術」の習得
- ・ 林業の実践力を高める「就業体験」の実施



（資格取得：チェーンソー）



（専門研修：枝物生産実習）



（専門研修：森林調査）



（専門研修：伐木造材実習）



#### 2 林業事業体の取組支援、各種研修等

- ・ 林業事業体の雇用拡大等の取組支援
- ・ 技能講習や特別教育等の研修実施
- ・ U I ターン者の就業促進活動やW E B サイトによる情報発信

#### 工夫・留意した点

- ・ 森林・林業の基礎等が学べる環境が整っている「森の研修館かごしま」及びドローン等のI C T機器が整備され、最先端の知識と技術等を学べる環境が整っている「鹿児島大学農学部附属高限演習林」の2つの施設において研修を実施
- ・ 本県の特徴を生かした研修カリキュラムを編成
- ・ 林業事業体や関係団体等が一体となった「かごしま林業大学校サポートチーム」により、研修の実施を支援

#### 取組の効果

- ・ 「かごしま林業大学校」の第一期生の13名は、県内各地の林業事業体等に就業
- ・ 林業の認知度向上と新規就業者の確保に繋がっている
- ・ 関連団体等と連携し、就業者等の技能レベルに応じて段階的かつ体系的に研修などを実施

#### ◇ 基礎データ

|               |            |
|---------------|------------|
| ①令和7年度譲与額     | 148,149千円  |
| ②私有林人工林面積（※1） | 163,079ha  |
| ③人口（※2）       | 1,588,256人 |
| ④林業就業者数（※2）   | 1,959人     |

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2年国勢調査」より

- 地域の木材（かごしま材）を積極的に利用した家づくりは、林業・木材産業の振興を通じた地域経済の活性化はもとより、森林整備の推進や地球温暖化の防止などに貢献
- かごしま材を積極的に使用した家づくりに取り組む工務店等の登録や活動支援等を行うとともに、SNS広告機能を活用して、同工務店の取組やかごしま材利用の意義や効果などについて普及・PRを実施

## □ 事業内容

### 木のぬくもりあふれる「かごしま木の家」推進事業

#### 1 「かごしま木の家」の普及・PR等

【事業費】1,518千円（委託：全額譲与税）

- 【実績】・ かごしま緑の工務店のPR・登録事務
- ・ SNS広告の作成・掲載
  - ・ 「かごしま木の家」受注増加に向けた研修会開催(64名参加)

#### 2 「かごしま緑の工務店」の活動支援

【事業費】4,500千円（補助金：全額譲与税）

- 【実績】 かごしま緑の工務店(17社)による完成見学会等の販売促進活動を支援

## □ 取組の背景

- ・ 本県の森林資源は、スギ・ヒノキの人工林を中心に利用期を迎えており、これらの資源を有効活用するためには、良質材の需要と密接な関係にある住宅建築を進めることが必要
- ・ 住宅着工戸数は、長期的には少子化等の影響による減少が予想されることなどから、木材需要の減少が懸念
- ・ かごしま緑の工務店に対する活動支援や意識醸成を図る研修会を行うとともに、SNS広告を活用した「かごしま木の家」の普及・PRが必要



（完成見学会）



（緑の工務店研修会）



（SNS広告の掲載）

## □ 工夫・留意した点

- ・ 研修会においては、地域で活躍する地元インフルエンサーを講師に招き、地域工務店等にとっての情報発信の重要性や地元で信頼を得るためのSNS活用術について講義
- ・ Instagram広告機能のフィード、ストーリーズ等を活用して、幅広い世代に対して「かごしま木の家」の魅力を発信

## □ 取組の効果

- ・ かごしま緑の工務店登録数 162社（R8.3現在）
- ・ かごしま緑の工務店の活動を支援（完成見学会30回、構造見学会4回 など参加者合計：4,941人）
- ・ SNS広告を活用した「かごしま木の家」の普及・PR（広告視聴人数：59,972人）

## ◇ 基礎データ

|               |            |
|---------------|------------|
| ①令和7年度譲与額     | 148,149千円  |
| ②私有林人工林面積（※1） | 163,079ha  |
| ③人口（※2）       | 1,588,256人 |
| ④林業就業者数（※2）   | 1,959人     |

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2年国勢調査」より